

**製品名: hnRNP Q ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12153**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	62kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SYNCRIP
別名	SYNCRIP; HNRPQ; NSAP1; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein Q; hnRNP Q; Glycine- and tyrosine-rich RNA-binding protein; GRY-RBP; NS1-associated protein 1; Synaptotagmin-binding; cytoplasmic RNA-interacting protein
遺伝子 ID	10492.0
SwissProt ID	O60506
免疫原	抗血清はヒト hnRNP Q 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 236-285

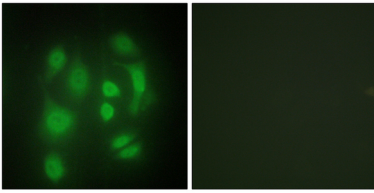
**背景**

この遺伝子は、細胞内ヘテロ核リボ核タンパク質 (hnRNP) ファミリーのメンバーをコードしています。hnRNP は RNA 結合タンパク質であり、ヘテロ核 RNA (hnRNA) と複合体を形成し、選択的スプライシング、ポリアデニル化、その他 mRNA の代謝および輸送を制御するタンパク質です。この遺伝子がコードするタンパク質は、mRNA 成熟の様々な側面において役割を果たし、アポ B RNA 編集複合体や運動ニューロン生存 (SMN) 複合体など、いくつかの多タンパク質複合体と関連しています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写産物変異体が観察されており、この遺伝子の擬似遺伝子は 20 番染色体短腕に位置する。[RefSeq 提供、2011 年 12 月],ドメイン: 8 つの Arg-Gly-Gly 反復を含むドメインは、RNA 結合およびタンパク質間相互作用に関与している可能性がある。機能: mRNA プロセッシング機構に関与する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP)。アイソフォーム 1、アイソフォーム 2、およびアイソフォーム 3 は、in vitro においてプレ mRNA、スプライシング中間体、および成熟 mRNA タンパク質複合体と関連する。アイソフォーム 1 は、アポ B mRNA の AU リッチ配列に結合する。アイソフォーム 1 は、APOB mRNA エディトソーム複合体の一部であり、A1CF (APOBEC1 相補因子)、APOBEC1、または RNA 自体に結合して、APOB mRNA の転写後 C から U への RNA 編集を調節する可能性があります。翻訳連動した mRNA ターンオーバーに関与している可能性があります。主要コード領域不安定性決定因子 (mCRD) ドメインによって媒介される FOS mRNA の細胞質脱アデニル化/翻訳および崩壊の相互作用において、他の RNA 結合タンパク質と関係しています。in vitro では、ポリ (A) およびポリ (U) RNA 配列と優先的に相互作用します。アイソフォーム 3 は、シナプトタグミンとの相互作用を介して、細胞質小胞ベースの mRNA 輸送に関与している可能性があります。PTM: チロシンがリン酸化されています。ミクロソームに見られる膜結合型は、in vitro でインスリン受容体チロシンキナーゼ (INSR) によってリン酸化されます。RNA に結合するとリン酸化が阻害される一方、細胞質型はほとんどリン酸化されない (類似性による)。DNA 損傷 (おそらく ATM または ATR による) によりリン酸化される。配列注意: 汚染配列。位置 413 から始まるポリ A 配列の可能性がある。類似性: 3 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。細胞内局在: 主に核質で発現する。細胞内局在: RNA に結合したチロシンリン酸化型はミクロソームに存在する。サブユニット: アイソフォーム 1 は、APOB mRNA エディトソーム複合体の構成要素であり、APOBEC1 および A1CF (APOBEC1 相補因子) と相互作用する。FOS mCRD ドメインに関連する複合体の一部であり、PABPC1、PAIP1、CSDE1/UNR、HNRPD、および SYNCRIP で構成される。POLR2A の過剰リン酸化 C 末端ドメインと相互作用する。マウス微小ウイルス (MVM) の NS1 タンパク質と相互作用する。アイソフォーム 1、アイソフォーム 2、およびアイソフォーム 3 は SMN と相互作用する。アイソフォーム 3 は C 末端ドメインを介して SYT7、SYT8、および SYT9 と相互作用する (類似性による)。非リン酸化型およびリン酸化型は、ポリソーム内で PAIP1 と共局在する (類似性による)。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22 から構成されています。RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、ZCCHC8。組織特異性: 普遍的に発現。心臓、脳、脾臓、胎盤、脾臓、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、胸腺、前立腺、子宮、小腸、結腸、末梢血、精巣で検出。、

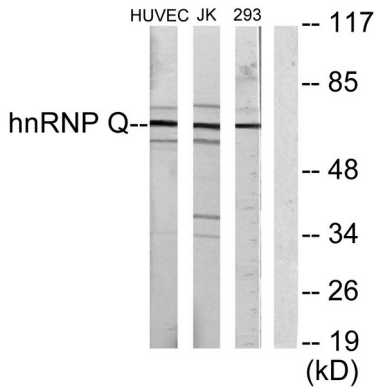
## 研究分野

微生物学

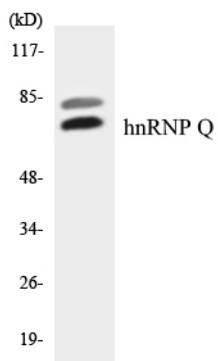
## 画像データ



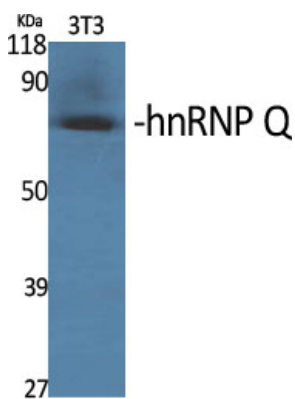
hnRNP Q 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



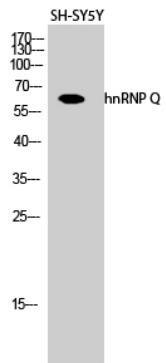
Jurkat 細胞、HUVEC 細胞、および 293 細胞のライセートを hnRNP Q 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



hnRNP Q 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



hnRNP Q ポリクローナル抗体を 1:2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



hnRNP Q ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた SH-SY5Y 細胞のウェスタンブロット解析